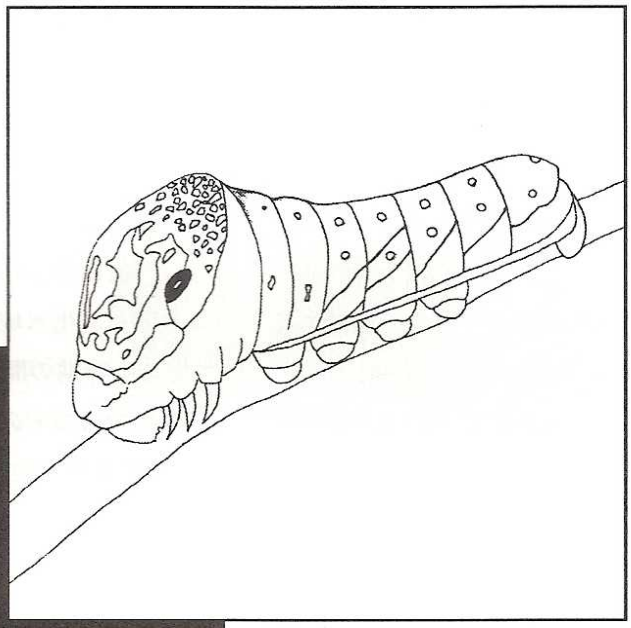
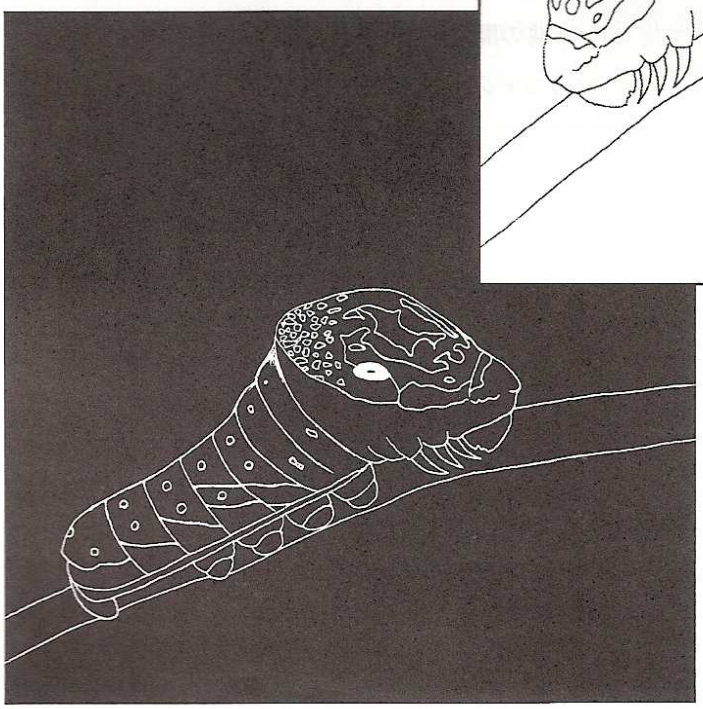
翔

百万石蝶談会　No.171



December 2004



てっちゃんの「トンボは楽し」１．コオニヤンマ

浅　地　哲　也

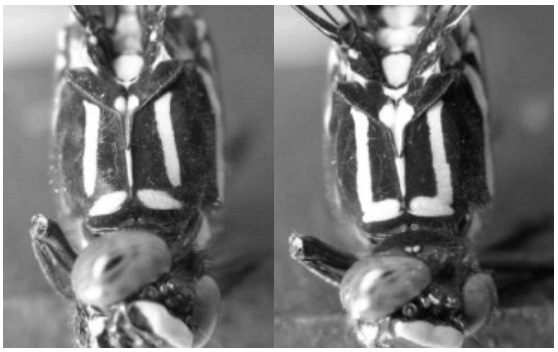
トンボの仲間

1. イトトンボ科
2. モノサシトンボ科
3. アオイトトンボ科
4. カワトンボ科
5. ムカシトンボ科
6. ムカシヤンマ科
7. サナエトンボ科
8. オニヤンマ科
9. ヤンマ科
10. エゾトンボ科
11. トンボ科

【ヤンマにあらず】

名前はヤンマだがサナエトンボの仲間である。日本のサナエトンボの中では最大。県内では主に川の中、上流域など流水で幼虫が育つ流水系のトンボだが、琵琶湖などの湖でも成育し活動しているという。６月上旬より羽化するが、川で縄張りを持つようになったオスをよく見かけるのは７月中旬ごろから。一般にトンボは羽化すると未熟なうちは羽化水域を離れる傾向があると言われている。本種も羽化水域を離れ山に昇るものもいるが（医王山)、羽化の始まる時期から成熟虫が現れる時期の間に半成熟な個体を川縁で確認できるので、羽化水域をあまり離れず川縁で成熟を待つものもいると考えられる。

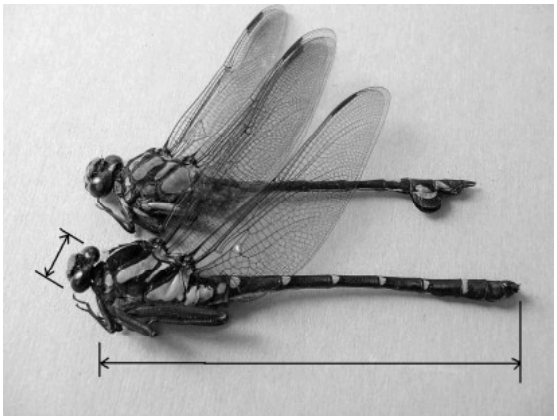
サナエの種の同定には体に現れる黄斑､黒色条を目安に検索を進める検索方法もあるが、変異などがあり有効な方法とは思われないこともある。しかしこれがかえって斑紋の変異に関心を抱かせ興味深い変異が観察報告されることがある。本種には翅胸前面にあるＬ字斑と呼ばれる黄斑には２つのタイプが一般的に見られる。



翅胸前面にあるL字斑と呼ばれる2タイプの黄斑

本種の特徴の一つとして「体の大きさの割りに頭部が小さい」事がしばしば挙げられるが、ヤンマの名を冠したもう一つのサナエトンボ、ウチワヤンマと比較してみる。ウチワヤンマは逆にサナエトンボの中では「体の大きさの割りに頭部が大きい」印象がある。

こういった比較の意味や測定の仕方が妥当かどうか分からないが、手持ちの標本でそれぞれの頭部を除いた全長を頭部幅で割った値をヤマサナエ、ギンヤンマとも比較してみた。
コオニヤンマ 7.9、ウチワヤンマ 6.5、ヤマサナエ 7.2、ギンヤンマ 6.5、 という結果になった。ウチワヤンマと比較して約1.4頭身の差がみられた。やはり本種は小顔であった。
また本種は道路や葉上に静止するほか、その他のサナエと比較して、ウチワヤンマほどではないが棒などの先にもよく静止するのが見られる。



6.5頭身のウチワヤンマ（上）と、7.9頭身のコオニヤンマ（下）の比較。コオニヤンマは、体の大きさの割りに頭部が小さい小顔だ。

【住所不定】

幼虫は色形ともまるで枯葉のようであり偏平で実に特異な形の印象的なヤゴ。色は黒褐色から茶褐色のものがいる。私が子供のころ川で魚すくいをしているとたまたま掛かってきたが、自分の中では正体が分からないままであった。こんな体から細長いトンボが出てくると分かった時は不思議でしょうがなかった。トンボに興味があるのもこのコオニヤンマが一つのきっかけでもある。

まるで枯葉のように偏平なヤゴ。黒褐色型と茶褐色型

羽化はたいがいのサナエトンボと同様、直立型で日中おもに午前中に行われる。

トンボの幼虫は種によって例外はあるものの、流水、止水の環境の二つに大まかに住み分けているのが観察される。また流水の中でも泥底、石の下、植物の根際などといった細分化したポイントにさらに種によって住み分けていることが観察される。しかし本種が見つかるポイントは広範であり泥底、石の下、植物の根際にも見られ、ポイントを絞り込み特定することは困難に思われる。前述した「湖でも生育、活動する」ということではほかにもホンサナエやアオサナエなどが知られているが、これらは川ではそれぞれ泥底、砂礫底と大体の住み分けのポイントが特定できるが、本種の場合は広範なポイントを住家としているようであり住所不定である。このことは本種の幼虫の環境に対する適応力が高いの

で積極的に様々な環境に進出するため、と考えるか、幼虫が何らかの理由でさまざまなポイントに流されるも移動力が弱いためにやむを得ずその場に定着しているため、と考えたらよいのか理由は分からない。

県内では大きい川や小川にも広範に分布していると思われるが、本種が見られる地点に大小複数の流れがある場合、大きな流れを好む傾向があるように思われる。たとえば幅６０センチほどの本流から幼虫は確認できるが、その支流の幅３０センチほどの流れからは確認できないことがある。例外はあるものの幅３０センチ未満のあまりに小さい細流には生息しづらいと考えられる。しかしこんな所でもオニヤンマやまた別の種が生息しており、成虫にはより大きい流れを産卵水域とする選択性があるのか、もし狭い水域に産卵されたとしても幼虫が狭い水域から脱出しようと流下してしまうためなのか、興味は尽きない。

《あさじ てつや 〒921-8021 金沢市御影町２６－７》

金沢市鈴見台でトゲナナフシを観察

松 井 正 人

石川県内では、これまで卯辰山で観察されていたトゲナナフシ（浅地、2003）を、卯辰山に隣接する鈴見台でも観察したので報告する。

トゲナナフシ　2004年11月13日　石川県金沢市鈴見台　15♀　松井正人

観察したのは、鈴見台の住宅団地と卯辰山側の山林との境を流れる水路の中で、水が流れている水路、流れていない水路、両方から観察した。１♀は、水が流れていない水路の底で発見し、残りの14♀は、水が流れている水路と流れていない水路、両方の壁から発見した。前日は、大雨注意報が出る程の雨が降っていたので、地上徘徊性の本種は、山林から流されてきた可能性が高い。

トゲナナフシは、前脚をまっすぐ前へ伸ばした恰好で、住宅地を流れる水路の壁に何頭も張り付いていた。

《 参考文献 》

浅地哲也（2003）石川県金沢市のトゲナナフシ．翔（165）：１．

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県輪島市におけるダイミョウセセリの後翅表面の白帯について

日 吉 芳 朗

ダイミョウセセリには、後翅表面に明瞭な白帯が現われる関西型（ssp. *daiseni*）と白帯がなく全体が黒色の関東型（ssp. *tethys*）が知られ、それらの分布の境界は、人によりいくぶん差がある。たとえば白水隆監修（1976）は、若狭湾東部と伊勢湾西部付近を結ぶ線より東北の地域に産するものは関東型であり、同線より南西の地域に産するものが関西型であるとし、その線の両側にあたる福井、岐阜などでは両型の中間型が見られるとしている。また、藤岡知夫（1975）は中間型を認めつつ、薄い白帯が認められるものを関東型に分類し、さらに後翅裏面にも注目して関東型といっても裏面には薄く白帯が存在する個体が多く、関東や青森では８割以上を占めるとしている。

これらの記述からみると、能登半島のほぼ先端に位置する石川県輪島市のダイミョウセセリは､関東型に属すると推測されるものの､これまでこのことに関する調査記録がなかった。そこで筆者は、手元にある1955年に採集した2♂と1978年以降に採集した26♂12♀の計40頭の標本について検討を加えてみた。この地でのダイミョウセセリの個体数が少ないこともあり、標本数が必ずしも十分とはいえないまでも、採集地点は輪島市のほぼ全域にわたっていることから、およその傾向を知ることができると思われる。

検した標本を白帯の状態から４分類すると、明瞭な白帯を持つものは１頭もなく、薄い白帯を有するもの16♂5♀、痕跡程度の白帯を有するもの7♂3♀、白帯を有しないと判断されるもの5♂4♀であった。一方､裏面の白帯はほぼすべての個体に認めることができた。

石川県輪島市におけるダイミョウセセリ後翅の白帯

表面の白帯	裏面の白帯	個体数	割合
明瞭な白帯	認められる	なし	
薄い白帯	認められる	16♂５♀	53%
痕跡程度の白帯	認められる	７♂３♀	25%
白帯を有しない	認められる	５♂４♀	22%

これより輪島市のダイミョウセセリは、藤岡知夫（1975）にもとづけば、関東型に分類されることになるが、白帯の有無から判断するなら中間型ともみられる個体がかなりの割合を占めるようにみえる。今後、輪島市の周辺をも含めてより詳細な調査の必要性を感じている。

本稿を記すきっかけを与えられた、宇治市の長谷川政興氏に感謝いたします。

《参考文献》

白水隆監修（1976）ダイミョウセセリ．原色日本蝶類図鑑（全改訂新版）：305-306．保育社．

藤岡知夫（1975）ダイミョウセセリ．日本産蝶類大図鑑：5．pl.1．講談社．

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町１部64-1》

石川県輪島市周辺に於けるオオヒカゲの裏面色について

日 吉 芳 朗

オオヒカゲの後翅裏面にある眼状紋列の内側の色調には、白色、黄色、褐色の３タイプがあり、とくに北海道では同一産地にすべてのタイプがあらわれる地域があることが知られており、本州でも例えば新潟県では３タイプすべてが現われるという（藤岡知夫、1975)。

筆者は、2001年から2004年にかけて、輪島市周辺の比較的広い範囲に本種を見出したことから、その地で成虫採集した28♂23♀の色調を検討してみた。

表1. オオヒカゲの後翅裏面眼状紋列の内側の色調

採　集　地	白色型	黄色型	褐色型
輪島市中段町堂下	2♀		
輪島市三蛇山	1♂ 4♀	4♂	
輪島市鉢伏山	1♀		
輪島市三井町与呂見坂田	13♂10♀	1♂	2♂
鳳至郡門前町鬼屋	1♂	3♂	
鳳至郡柳田村五十里	1♀		
珠洲市若山町中田	1♀		
珠洲郡内浦町十八束	3♂ 4♀		
計	18♂23♀	8♂	2♂

裏面の色調は、３色の間を連続的に変異しているように見えることや、濃淡にもかなりの差があることが明らかになり、輪島市周辺に於いても、白色、黄色、褐色の３タイプが混在することがわかった。しかし、おおむねこの地域の本種の裏面色は白色型と考えて良いと思われる。

オオヒカゲの分布は局地的とされているものの能登には産地が多いので、今後は、能都町や穴水町も含め、より詳細な調査を行い、奥能登地区という観点から、オオヒカゲの裏面色について調査を進めたい。

末筆ながら、多大なご教示を与えられた長谷川政興氏と松井正人氏に厚くお礼を申しあげる。

《参考文献》

藤岡知夫（1975）オオヒカゲ．日本産蝶類大図鑑：266．pl.131-132．講談社.

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町１部64-1》

石川県でカマキリ３種を観察

松　井　正　人

石川県で、カマキリ３種を観察したので報告する。いずれも採集はしていない。

■オオカマキリ

２００４年　９月１１日　羽咋郡押水町北川尻　　１♂　松井正人
２００４年　９月１８日　羽咋郡押水町宝達山頂上　１頭　松井正人
２００４年１１月１３日　金沢市御所　　１頭　松井正人

■コカマキリ

２００４年　９月１１日　羽咋郡押水町宝達山頂上　１頭　松井正人
２００４年１０月３０日　金沢市観法寺　　１♀　松井正人
２００４年１１月１３日　金沢市利屋　　１頭　松井正人

■ヒナカマキリ

２００４年　８月２２日　羽咋郡富来町笹波　　３頭　松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

七尾市・田鶴浜町・中島町・能登島町の合併に伴う住所表示の変更

蝶談会事務局

平成16年10月1日に、七尾市、鹿島郡田鶴浜町、同郡中島町及び同郡能登島町が合併し、新「七尾市」が誕生した。この合併に伴う住所表示の変更についてお知らせする。

■合併後の住所表示

１．七尾市

旧七尾市の住所表示に変更は無い。

２．鹿島郡田鶴浜町

「鹿島郡田鶴浜町」が「七尾市」に置き換わり、「字」が取れ、字名の後に「町」が付いた。

表示例　　鹿島郡 田鶴浜町 字 舟尾　→　七尾市 舟尾 町
　　鹿島郡 田鶴浜町 字 川尻　→　七尾市 川尻 町

3．鹿島郡中島町

「鹿島郡」が「七尾市」に置き換わり、「字」が取れた。

表示例　鹿島郡 中島町 字 瀬嵐　→　七尾市 中島町 瀬嵐
　　鹿島郡 中島町 字 豊田町　→　七尾市 中島町 豊田町
　　鹿島郡 中島町 字 豊田　→　七尾市 中島町 豊田

4．鹿島郡能登島町

「鹿島郡能登島町」が「七尾市」に置き換わり、「字」が取れ、字名の前に「能登島」が付き、字名の後に「町」が付いた。

表示例　鹿島郡 能登島町 字 二穴　→　七尾市 能登島 二穴 町
　　鹿島郡 能登島町 字 日出ヶ島　→　七尾市 能登島 日出ヶ島 町

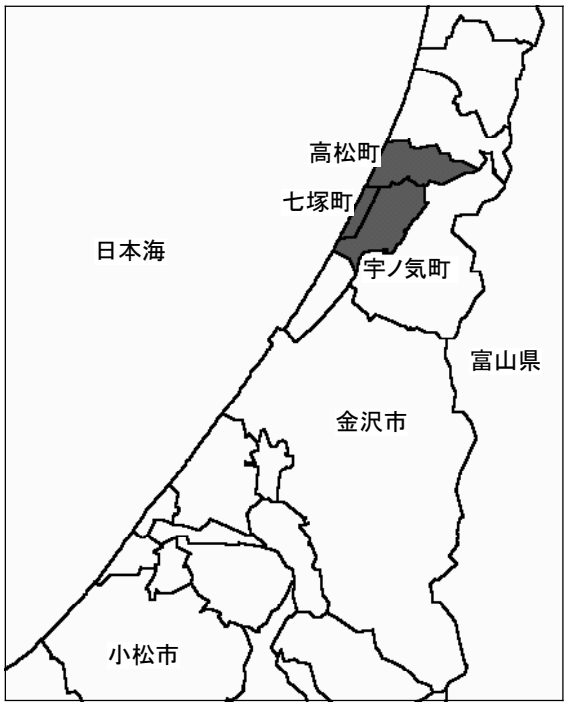
■字の名称

田鶴浜町	中　島　町		能登島町
舟尾(ふのお)	瀬嵐(せあらし)	鹿島台(かしまだい)	二穴(ふたあな)
川尻(かわしり)	長浦(ながうら)	深浦(ふかうら)	日出ヶ島(ひでがしま)
垣吉(かきよし)	小牧(おまき)	外(そで)	野崎(のざき)
新屋(あらや)	田岸(たぎし)	横見(よこみ)	小浦(おうら)
田鶴浜(たつるはま)	別所(べっしょ)	呉竹(くれたけ)	長崎(ながさき)
三引(みびき)	河内(かわち)	大平(おおだいら)	鰹目(えのめ)
高田(たかた)	古江(ふるえ)	鳥越(とりごえ)	八ヶ崎(はちがさき)
杉森(すぎもり)	藤瀬(ふじのせ)	西谷内(にしやち)	祖母ヶ浦(ばがうら)
大津(おおつ)	町屋(まちや)	上畠(うわばたけ)	向田(こうだ)
白浜(しらはま)	横田(よこた)	北免田(きためんでん)	曲(まがり)
深見(ふかみ)	谷内(やち)	宮前(みやのまえ)	島別所(べっしょ)
西下(にししも)	上町(かんまち)	山戸田(やまとだ)	佐波(さなみ)
吉田(よした)	浜田(はまだ)	中島(なかじま)	須曽(すそ)
伊久留(いくろ)	崎山(さきやま)	奥吉田(おくよしだ)	半浦(はんのうら)
七原(しつはら)	河崎(かわざき)	豊田町(とよたまち)	南(みなみ)
東山(ひがしやま)	豊田(とよた)	土川(つちかわ)	無関(むせき)
上野ヶ丘(うわのがおか)	外原(そどはら)	筆染(ふでそめ)	閨(ねや)
	笠師(かさし)	塩津(しおつ)	久木(くき)
	奥吉田新(おくよしだしん)		田尻(たじり)
	笠師新(かさししん)		通(とおり)
			百万石(ひゃくまんごく)

高松町・七塚町・宇ノ気町の合併に伴う住所表示の変更

蝶談会事務局

平成16年3月1日に、河北郡高松町、同郡七塚町及び同郡宇ノ気町が合併し、かほく市が誕生した。この合併に伴う住所表示の変更についてお知らせする。



■合併後の住所表示

河北郡高松町、河北郡七塚町、河北郡宇ノ気町が「かほく市」に置き換わり、「字」が取れた。字の名称と区域については、現行のとおり。

表示例　河北郡高松町 字 高松
→ かほく市 高松
河北郡七塚町 字 木津
→ かほく市 木津
河北郡宇ノ気町 字 鉢伏
→ かほく市 鉢伏

■字の名称

高　松　町	七　塚　町	宇　ノ　気　町	
高松(たかまつ)	木津(きづ)	森(もり)	鉢伏(はちぶせ)
野寺(のでら)	松浜(まつはま)	谷(たに)	狩鹿野(かるがの)
内高松(うちたかまつ)	遠塚(とおづか)	宇気(うけ)	笠島(かさしま)
八野(はちの)	浜北(はまきた)	指江(さしえ)	七窪(ななくぼ)
長柄町(ながらまち)	秋浜(あきはま)	多田(ただ)	上田名(うわだな)
瀬戸町(せとまち)	外日角(そとひすみ)	余地(よち)	宇野気(うのけ)
若緑(わかみどり)	白尾(しろお)	気屋(きや)	内日角(うちひすみ)
夏栗(なつぐり)		湖北(こほく)	上山田(かみやまだ)
箕打(みうち)		大崎(おおさき)	下山田(しもやまだ)
中沼(なかぬま)		横山(よこやま)	
元女(がんにょ)			
二ツ屋(ふたつや)			
黒川(くろがわ)			

能登の赤斑拡大型クロアゲハ

能登のオナシクロアゲハにとりつかれた松井氏、能登産の赤斑デカデカ個体の累代飼育に取りかかったが、二代目の食い付きがすこぶる悪い。いろいろ試し、カラスザンショウ幼木の新葉で、何とか食いついた。

スナアカネとイソアカネ

氷見でスナアカネゲットの情報に、能登へ調査に走った浅地氏だが、普通種のみの観察に止まった。十月は迷トンボの季節、沿岸部の赤とんぼには、要注意。

最初で最後の再捕獲

白峰、尾口、吉野谷と白山を取り巻く三村から飛ばしていたアサギマダラが、ようやく再捕獲された。一九八七年から飛ばし初め、最後のシーズンで再捕獲が叶った訳である。この三村、来年二月には松任市などと合併して白山市と成る。

次なるターゲットは熊だ

カメラを抱えた小父さん、蝶も一通り撮影したところで、次なる標的を熊に絞った。毎夜、自宅から五分の額谷ふれあい公園に出没しているのが発端らしいが、夜の外出はすこぶる危険。

能登のブラックバス駆除隊

能登のため池は、伝統的な水管理がなされ、日本各地では既に消え去った生き物が残っている貴重な場所。ここに、ブラックバスがはびこり始めたため、西原君は関係者に働きかけ、有志と共にバス駆除を行った。

鈴を鳴らしてトゲナナ調査

トゲナナフシの夜間の生態観察に出かけた松井氏だが、熊が怖くて鈴を携行したとか。トゲナナは、見付かったものの、動きが無いトゲナナと共にじっとしてると鈴が鳴らず、早々に帰ってきた。卯辰山なんだけどなあ。

大型台風の置きみやげ

超大型の二十三号台風は、各地に甚大な被害をもたらして過ぎ去ったが、輪島ではウスイロコノマが目撃された。被害をもたらさず、迷蝶だけをもたらす台風は歓迎なのだが。

台風めがけて沖縄採集旅行

十月二十一日、超大型の台風がふたつも接近中の沖縄に旅立った細沼氏、飛行機が止まらない内にと、石垣、西表を飛び回り、二十四号に追いまくられて帰ってきた。成果は、ホシボシキチョウ少々。

まさかのクロマダラをゲット

タマムシに魅入られた浅地氏、盛夏に材内アオマダラをゲットし、次なる獲物はクロマダラと、調査を続けていたところ、思わぬ場所で、クロマダラ多数を割り出した。

額谷公園周辺で熊二頭捕獲

毎夜出没する黒い影に、恐れおののく付近住民。カメラを抱えた小父さんは、足跡、爪痕、糞を撮影し、時期実れりと思った矢先、猟友会が二頭を捕獲した。ケガする前で良かった。

例会の記録

十月七日（木）城南管工一階にて、午後八時から開催。

今回は、「熊の異常出没と昆虫採集」について、松井氏が報告。今年の熊の出没状況は、例年の十倍、全県で毎日二十～三十箇所で目撃され、市街地に近づいてきている。能登と海岸と市街地以外では、熊と遭遇する確率は百％に近く、夜間採集は厳禁。

その他の話題は、いしかわレッドデータブックの改訂作業開始、次なる獲物はクロマダラ、熊の糞で運が付いた、小松で熊と遭遇、熊鈴が売り切れ、などなど。

参加は、中西、浅地、井村、竹谷、富沢、細沼、松井、西原の八人。

【表紙デザイン：小幡英典】
【表紙イラスト：坂原　圭】

会員の動き・しゃばの動き

いしかわレッド二〇〇八始動

二〇〇〇年に発行したレッドデータブックの見直し作業を、今年から四年間で行い、二〇〇八年に改訂版を発行する計画を石川県が発表。

宝達山マーキング会は大盛況

九月の宝達山は、アサギマダラが乱舞し、十一日からは毎日のようにマーキング会が開かれた。最も多かった十二日は、次から次と現れるアサギに、宝達山ブナ林は、一日中賑やかだった。今シーズンは、延べ三百四十人が参加し、六百頭にマーキングした。

虫屋はやっぱりおかしいか？

外国土産の食べ物から虫が出てきて大喜びするのは、おかしいか？ いただいた人に、虫が出てきたとお礼を言ったら失礼か？ やってしまいました。でも、本当に嬉しかった。

メキシコでシロモルフォを堪能

指田氏、九月十三日から十日間、優雅に飛び回るシロモルフォに網を振る。たくさん採りすぎて、標本箱が足りなくなりそう。

あきれるくらいに蝶がいない

秋の沖縄採集行を楽しみにしていた日吉氏、入野名ガイドの案内で各地を回ったが、何処へ行っても蝶がいない。ヒイロシジミどころか、カラスやクロアゲハもほとんど居なかった。どうなってんの。

双眼鏡の優れもの7X15D

虫を観ていて、肉眼では小さ過ぎ、双眼鏡では近すぎてピントが合わなかった経験が良くある。この悩みを解消したのが、最短焦点距離一・五Mのこれ、自分の足元でもピントが合い、百九十グラムと超軽量で持っているのを忘れてしまう。倍率七倍ニコン製。

目の前を熊が走り抜ける

アオマダラ調査に余念が無い浅地氏、次の調査地へと車に乗った瞬間、車の前を熊が走り抜けた。以来、頭の中は熊だらけで、集中できない。

秋の舳倉島へ蝶ウォッチング

矢田氏、鳥見と蝶見と兼ねて、舳倉島へ渡ったが、地球の異変か、鳥も蝶も空振りだった。密かに、アサギマダラ、ツマグロヒョウモン、ウラナミシジミなどを期待していたのに。残念。

熊の異常出没で山に入れず

加賀では、ちょっと山に入れば、熊に遭遇する昨今、虫屋はみんな山を避けて沿岸部や能登で新規開拓に精を出している。

翔 171号

Tobu 2004年12月10日発行

百万石蝶談会

http://homepage3.nifty.com/100man/

金沢市大場町東871-15 松井方

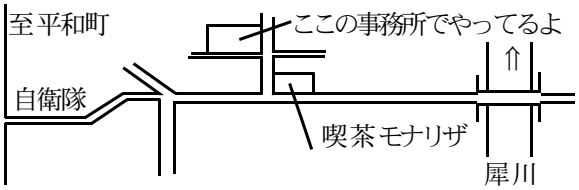
〒920-3121 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から

TEL参加もOKです（076-244-3318）



目　次（171号）

浅地哲也：てっちゃんの「トンボは楽し」１．コオニヤンマ …… 1
松井正人：金沢市鈴見台でトゲナナフシを観察 …… 3
日吉芳朗：石川県輪島市におけるダイミョウセセリの
後翅表面の白帯について …… 4
日吉芳朗：石川県輪島市周辺に於けるオオヒカゲの裏面色について … 5
松井正人：石川県でカマキリ３種を観察 …… 6
蝶談会事務局：七尾市・田鶴浜町・中島町・能登島町の
合併に伴う住所表示の変更 …… 6
蝶談会事務局：高松町・七塚町・宇ノ気町の
合併に伴う住所表示の変更 …… 8
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き ……10